



トヨタ自動車株式会社取締役
木下 光男

21世紀を迎え、地球規模の環境問題はますます厳しさを増しており、企業にとりまして、環境への対応はまさしく活動の生命線と言ってよいと思います。このような状況の中、私どもは、身近な森の再生こそ、問題解決の糸口になるのではないかと考えまして、様々な取り組みを、社会貢献活動として展開してまいりました。「里山の再生」というこの取り組みは、今や国レベルはもとより、数多くの自治体や市民レベルにまで広がりを見せており、私どもにとりまして、大きな喜びとするところでございます。今後も、この活動をさらに幅広く、継続的に展開していきたいと考えておりますが、ここで、本日ご議論いただきました新たな課題も加えまして、私どもトヨタ自動車のこれからの実践計画の一端について述べさせていただきますと存じます。

まず、新たな取り組みとして、モデル林の充実・強化を図ってまいりたいと思います。現在のモデル林は、いわば「19世紀型の里山」を再現した部分が大半でございます。この、森が人の生業（なりわい）と密接なつながりを持っていた頃の里山というものから、先人の知恵に学ぶという形で、これまで多くの知識・経験を得てまいったわけでございます。今後は、森とまちの間を森林資源が循環する新しい姿、「21世紀型の里山づくり」を進めてまいりたいと考えております。

また、継続事業にはなりますが、環境教育プログラム「エコのもりセミナー」と自然生態系の基礎調査「エコモニタリング」について、内容をさらに充実させて実施していく予定でございます。このうち、「第2期エコのもりセミナー」におきましては、モデル林の充実・強化とも関連させ、「21世紀型里山づくり」を担う、様々な専門性を持ったリーダーを育成するプログラムや、子どもも含めて一般市民を対象とする「森遊び倶楽部」、さらには、緑化関係者の新たなネットワークづくりをねらいとするプログラムなどを検討しております。

以上申し上げましたような取り組みにつきまして、皆様方からの貴重なご意見も参考にさせていただきながら、鋭意進めてまいり所存でございますので、今後ともご指導・ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、私どもは、グローバル且つ長期的視野に立ちつつ、「地球環境との調和」に向けて、今後とも環境問題に積極的に取り組んでまいり所存でございます。皆様方におかれましても、今後とも緑化活動に、また環境保全活動において、一層のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。